

## 第3回選定委員会議事概要

- 1 日 時： 平成24年3月13日（月） 10:00 ～ 13:20
- 2 場 所： 東京国際フォーラム（東京、丸の内） Gブロック6階 G610会議室
- 3 出席者：[委 員] 福山秀敏（委員長）、岩佐和晃、片岡幹雄、金谷利治、亀井信一、岸本直樹、柴山充弘、高田昌樹、寺倉清之、鳥養映子、西島和三、林眞琴、山田和芳  
[一般財団法人総合科学研究機構（以下、CROSSと略称）] 藤井保彦、的場 徹  
[オブザーバー：文部科学省] 原克彦、甲斐哲也  
[オブザーバー：専門委員会主査] 吉澤英樹  
[オブザーバー：J-PARCセンター] 池田裕二郎、新井正敏、瀬戸秀紀  
[オブザーバー：CROSS] 箱田正雄、長谷川正芳、佐藤正俊、福嶋喜章、鈴木淳市、山下利之  
[事務局] 的場徹（兼）、梶原勝巳、太田淳子  
（以上、敬称略）

### 4 配布資料：

- 資料選 3-1 第2回選定委員会議事概要（案）
- 資料選 3-2 2012A 期登録機関利用課題、設置者利用課題について
- 3-2-1 FY2012 Calendar for MLF User Program
- 3-2-2 ビームタイム区分（2012A）
- 3-2-3 課題審査体制（一般利用・装置提案）
- 3-2-4 課題審査体制（プロジェクト利用）
- 3-2-5 開発課題審査委員会設置規程
- 3-2-6 JAEA 研究課題諮問委員会&CROSS 開発課題審査委員会名簿
- 3-2-7 プロジェクト課題（JAEA）ビームタイム日数
- 3-2-8 装置グループ課題（JAEA）・開発課題（CROSS）ビームタイム日数
- 3-2-9 共用ビームラインビームタイム日数
- 資料選 3-3 2012A 期一般利用課題について
- 3-3-1 2012A 期課題申請・採択状況
- 3-3-2 2012A 期利用研究課題審査委員会採択状況
- 資料選 3-4 平成24年度上期（2012A）課題審査についての意見
- 資料選 3-5 特定中性子線のうちの研究者等の共用に供する部分の利用に関する承認申請書（案）
- 資料選 3-6 専門委員会報告と平成24年実施方策について
- 3-6-1 トライアルユース検討のための専門委員会答申
- 3-6-2 トライアルユース説明図
- 資料選 3-7 2012B 期課題公募、審査方針について
- 3-7-1 共用BL利用計画（2012B）
- 3-7-2 課題審査体制（重点分野・トライアルユース利用）
- 参考資料 3-1 MLF 施設利用委員会&選定委員会名簿 Members of MLF Advisory Board & Selection Committee
- 参考資料 3-2 CROSS 東海の活動について
- 参考資料 3-3 Status of Neutron Beamlines

### 5 議 事：

## 1. 開会・前回の議事概要の確認

事務局より、出席者が定足数に達しており、選定委員会が成立する旨の報告があった。  
福山委員長より、資料選 3-1 第 2 回選定委員会議事概要（案）の確認の要請があった。

[結果]

第 2 回選定委員会議事概要（案）は承認された。

## 2. 文部科学省・原量研室長の挨拶

J-PARC の利用を積極的に進めることにより、日本の復興と科学技術の振興に文部科学省としても全力を尽くしていきたい。特にトライアルユースについて、JRR-3 など参考にしてより良い制度になるよう積極的にご検討いただき、文部科学省としてもこの次の政策の参考にしていきたい。

## 3. 審議事項

### (1) 平成 24 年度上期（2012A）登録機関利用課題、設置者利用課題審査報告と審議

藤井 CROSS 東海事業センター長が、資料選 3-2-1～3-2-9 に従って、報告を行った。

質問：JAEA の課題について、設置者利用枠をとる必然性は？よく練られたテーマを一般枠に提案したら何が問題なのか？

回答：JAEA は設置者として装置をよく知っているのもので、その装置の極限の状態を使った研究をして、ユーザーを拡大するというミッションがある。その他、装置の維持管理、人材の育成、装置の高度な開発などのため、設置者利用枠を第 2 回選定委員会で認めて頂いた。これらのプロジェクトは中、長期的なものなので、半年ごとの一般課題では支障がある。

質問：プロジェクトは誰がどのように決めたのか？サイエンスやフィージビリティ等について外部の意見が入る仕組みになっているか。

回答：JAEA の内部でテーマを決めて代表を決定し、その後はその代表にお任せした。ピークを出さなければいけないので、専門家であればあるほど特性などを知っているため、最初のテーマ設定はトップダウンで行った。課題は JAEA 研究課題諮問委員会/開発課題審査委員会で合同で審査され、KEK、JAEA の BL を利用する課題は MLF 運営調整会議で承認を受けたのち中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会・合同会議に報告され、共用 BL を利用する課題はこの合同会議で承認された。JAEA 研究課題諮問委員会は、サイエンティフィックなアドバイザーボードに審査機能を追加したものなので、外部の意見が入る仕組みとなっている。

質問：プロジェクト課題の採択率は？

回答：採択率は 100 %だが、ビームタイムは要求の半分になった。

質問：ビームタイムを減らした理由は？

回答：設置者利用枠 25 %、CROSS12 条枠 15 %を超えないように減らした。もし一般利用枠のビームタイムが余った場合は、リザーブドの一般課題を優先する。

意見：プロジェクト課題は内部公募であるので、課題採択率が 100 %ということ、メリハリ、優先順位がないことが危惧される。

質問：将来は、このようなプロジェクトを広く外に求めるのか？

回答：一般からの 3 年ぐらいの長期のプロジェクトの受け入れも検討している。

質問：委員の人選について、外から見て透明性はあるのか？同じ人がいくつかの委員会の委員になっているが、アドバイスした当人が審査して選んでいるという状態でよいのか。人選はどこでコントロールしているのか。

回答：今回は立ち上げであったので、J-PARC の方々と相談しながら人選を行った。本来は学会からの推薦等も含めて人選するのがよいと思う。文書化した原則はない。

[審議結果]

登録機関利用課題、設置者利用課題審査結果は承認された。

(2) 平成 24 年度上期 (2012A) 一般利用研究課題審査結果の報告と課題選定の審議

柴山利用研究課題審査委員長が、資料選 3-3-1、3-3-2 に従って、報告を行った。特に新規事項として、前回から一つの BL しか申請できなくなったため、申請した BL でビームタイム配分ができなくてもビームタイムが余っている類似の BL で実験ができるよう、スコア 3.0 以上の課題はすべてリザーブドとしたとの報告があった。

質問：一般利用枠は 60 %以上になるのか？今後その割合は変更可能か？

回答：1 年を通した 5 本の BL の平均で一般ユーザー枠の下限が 60 %であるが、その数値は選定委員会で適宜見直す。

質問：審査結果を数値化し 3.0 未満の場合は、ビームタイムが余っていても無条件に不採択とするのか？また、分科会スコアが 3.0 未満でも、利用研究課題審査委員会の判断で採択、或いはリザーブドとすることはあるのか？

回答：ルールとしては 3.0 未満で不採択とする。しかしレフェリー審査結果にばらつきがあるときなどは利用研究課題審査委員会で分科会長にヒヤリングをして結果を変えることも可能である。また分科会によって評点にばらつきがあるときもあるので、今回は分科会ごとのスコアのヒストグラムを作成し調整が必要ないことを確認した。統計的にノーマライズできるほどデータの蓄積がないので、当面はその都度分科会毎のスコアを確認し調整する。

[審議結果]

一般利用研究課題審査結果は承認された。

(3) 平成 24 年度上期 (2012A) 課題審査についての意見

柴山利用研究課題審査委員長が、資料選 3-4 に従って、問題提起を行った。

[緊急課題利用枠について]

質問：緊急課題の定義は？

回答：新物質発見等、次回の公募まで待つことにより国際競争において支障が生じるような課題。

質問：実例はあるのか？

回答：ある。JAEA の装置への申請だったので、装置グループ利用枠を調整して実施することにした。

意見：JRR-3 では施設側の枠で行っている。J-PARC でもそうして欲しい。

回答：J-PARC はまだ発展途上でビームが安定していないためビームタイムに余裕がなく、緊急課題利用枠は最初から概念としてはあったが枠を取っていなかった。安定して稼働を始めて余裕がきたら、一般枠とは別に枠取りをする。

意見：緊急課題利用枠の位置付けを決める必要がある。また割合や利用基準など、SPring-8 と J-PARC が足並みを揃えなければいけないと思うので、文部科学省のプラットフォーム委員会等でも検討して欲しい。

[BL 間の移動について]

補足：今回の場合は、BL12 の一般利用枠は 9 日しかなかったため、海外から申請された課題も含む、サイエンティフィックなレベルが高い課題にビームタイムが配分されなかった。一方、類似の測定ができる BL01 は 20 日ぐらいビームタイムが余っていたため、BL 間の移動についての提案をした。

意見：KEK や JAEA の BL に申請された課題が共用 BL で実施することができるというのは、J-PARC センターと CROSS の審査委員会が合同で審査しているおかげであり、この仕組みは非常に良い。

質問：BL 間の移動の理由には、空いている装置で実施するという場合と、移動した方が有効性が高いという、二つがあると思うが、そのコントロールはどのようにするのか。

回答：中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会で決定できることではないので、今回は施設側で話し合っただけで決めることになった。しかし、将来的にはルール作りが必要だと思う。

質問：実際に実施された場合の扱いはどうするのか。

回答：この選定委員会で報告することになる。

[審議結果]

これらの意見は今後課題審査に反映することとされた。

(4) 共用法 12 条の規定による利用の申請について

藤井 CROSS 東海事業センター長が、資料選 3-5 に従って、説明を行った。

[審議結果]

質問や意見はなく、特定中性子線施設のうちの研究者等の共用に供する部分の利用に関する承認申請書（案）は承認された。

(5) 専門委員会（トライアルユース制度検討）報告と平成 24 年実施方策について

吉澤専門委員会主査が、資料選 3-6-1、3-6-2 に従って、報告を行った。

コメント：SPing-8 の経験では、トライアルユースはスタッフの負担は大きいですが、波及効果がすごい。産業界に量子ビームの使い道を広く提示することができた。

コメント：JRR-3 で 5 年間行ったときは、成果公開型も非公開型も利用者の 6 割近くがトライアルユースの経験者であったという統計結果が出ている。トライアルユースは着実に新規利用者を拡大する効果があった。また、情報発信の窓口としては各分野に向けた研究会が有効で、その結果、産業界のあらゆる業種の人々が利用しに来た。

意見：中性子の場合、JRR-3 と J-PARC という 2 つの源の異なるビームがあるというメリットもあるので、うまく連携してできるといいと思う。

意見：産業利用中心に議論されているが、修士、博士の進路選択にも有効だと思う。

回答：トライアルユースと共に、学生向けには JAEA、KEK、CROSS 合同でスクールをやりたいと思っている。J-PARC では震災直前まで準備していて、来年度本格的に実施できるように検討している。また時期を限った実験以外に、随時学生を訓練できるシステムも将来的に検討を予定している。

意見：スクールでは、自由に実験ができることと、そのためのコーディネーターの確保が重要になると思う。

回答：学生の教育には中性子の利用者としての教育と、施設を担う技術力をつける教育の 2 面性がある。J-PARC では、利用者としての教育だけでなく、装置に触れることができるような教育を考えている。

コメント：トライアルユースを支援する取組みについても、プラットフォーム委員会で、大型共用施設の仕組みづくりの中で考えていきたい。

質問：トライアルユースのコンセプトだけでなく、利用枠割合 5 %も承認していただけるか？1 年で 176 日稼働する場合、8.8 日になるが。

まとめ：すべて承認する。

[審議結果]

トライアルユース検討のための専門委員会答申（案）は承認された。

(6) 平成 24 年度下期（2012B）課題公募・審査方針について

藤井 CROSS 東海事業センター長が、資料選 3-7-1、3-7-2 に従って、報告を行った。

[緊急課題利用枠について]

質問：産業界が必要としているのは成果非公開緊急課題だと思う。非公開課題に対しては J-PARC は課金しているが、緊急課題にも課金して成果非公開緊急課題ということはあるのか？

回答：課金については J-PARC 全体で足並みを揃えたい。

意見：申請書を実験後に提出となっているが、SPing-8 では緊急課題用の必要最低限の申請書を提出してもらっている。申請書を提出してもらって外部レフェリーにメール審査を受け、課題審査委員長に認めてもらうという形をとっておいた方が、透明性という点ではいい。

回答：実際には実験内容がわからないと判断できないので、申請書は書いてもらっている。また、デ

イビジョン長レベルの判断だけでなく課題審査部会長の判断も仰いで最終決定すべきだと思っている。

意見：緊急課題利用ビームタイムの設定の仕方について、学術的な意味での緊急課題は年に1回あるかないかであるが、産業利用ということであれば毎月の定例事象であるので、それも考慮に入れたうえで制度設計する必要がある。

[重点分野利用枠について]

コメント：重点分野については、SPring-8では大きいプロジェクトに通っているテーマには、有償で成果公開優先利用という形で行っている。審査については、すでにプロジェクトに通る際にされたということでサイエンティフィックな審査はせず、SPring-8の装置で実験できるかという技術的な審査のみを行う。

意見：SPring-8はBL数が多く、大型のプロジェクト用のBLも作り、設置者の理化学研究所が施設側ビームタイムをたくさん持っていた。しかしJ-PARCの場合は大型プロジェクトが既得権でビームタイムを使ってしまい、萌芽的研究をしている若手研究者の課題が採択されない心配がある。

回答：共用BLの5本だけでは重点課題について対応できないので、J-PARC全体で行う。ただ、J-PARCは国際公共財として成果を公開する実験は無償で行うことが前提になっていて、SPring-8とスタンスの違いがある。また限られたBL、ビームタイムであるので、プロジェクトとして認められたとしても、審査委員会がアドバイザー的な役割を持ち、アドバイスをして適切な実験をしてもらう必要がある。その上でビームタイムも決めることになる。

意見：課題審査体制について、J-PARCは国際公共財であることを考えると、独立した審査部会で審査すべきである。ただ、分科会を増やす人的資源の余裕はないので、P1～P8分科会で横断的に審査するか、誰かが課題を適切な分科会に割り振って委託するなど、現存分科会を活用したらどうか。大きなプロジェクトの課題について、本当に中性子利用が有効かどうかは中性子の専門家である現場の研究者が判断すべきだと思う。

意見：重点分野利用の対象について、いくつかある国のプロジェクトの中で元素戦略プロジェクトだけを取り上げているが、他のプロジェクトも対象にしなくていいのか。

質問：重点分野課題をレギュラーでやるということだが、全体を見渡してサジェストするコーディネーターはいるのか？

回答：J-PARC全体では茨城県、CROSSも含めて8名いる。今後、連携を取る必要がある。

[審議結果]

緊急課題、トライアルユース、重点分野課題の各枠をとることは承認されたが、具体的な制度設計についてはさらに検討し、再提案しメール審議することになった。

#### 4. 報告事項

##### (1) 共用装置の状況について

鈴木 CROSS 東海利用研究促進部長が、参考資料3に従って、報告を行った。

#### 5. その他

##### (1) 意見交換は特になかった。

##### (2) 次回の開催予定について

今回は、2012Bの課題選定と2013A公募・審査方針等の審議を行うため、平成24年8月下旬から9月上旬ごろ開催予定である。

以上